

船舶事故調査報告書

平成23年2月10日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵男（部会長）
 委員 山本 哲也
 委員 根本 美奈

事故種類	衝突（消波ブロック）
発生日時	平成22年6月23日（水） 03時02分ごろ
発生場所	北海道留萌市留萌港 留萌港南防波堤灯台付近 （概位 北緯43° 57.8′ 東経141° 37.8′）
事故調査の経過	平成22年8月2日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊漁船 第3幸徳丸、10.99m 201-817北海道、個人所有 10.99m (Lr) × 2.68m × 0.75m、FRP ディーゼル機関、330.98kW、昭和56年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 70歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和61年7月18日 免許証交付日 平成17年9月22日 （平成23年7月17日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	左舷船首外板損壊
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客6人を乗船させ、留萌港沖の釣り場に向け、同港内を出航した。</p> <p>船長は、留萌港南防波堤（以下「本件防波堤」という。）の先端の東方200m付近を通過するよう針路をとり、約6.4ノットの速力で手動操舵により北北西進し、同先端の東方200m付近で左転を開始した。</p> <p>船長は、GPSプロッター（以下「GPS」という。）に目的の釣り場を表示させていなかったため、舵を中央付近に戻して船尾方を向き、操舵室後部に置いたGPSの操作を始めた。</p> <p>本船は、船長がGPSの操作を終え、船首方を振り向いた平成22年6月23日03時02分ごろ、本件防波堤先端付近に設置された消波ブロックに衝突した。</p> <p>船長は、遊漁船仲間に携帯電話で救助を要請し、来援した僚船にえい航されて出航地に戻った。</p>
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m 留萌市に雷及び濃霧注意報が発表されていた。
その他の事項	船長は、ふだん、出航前に本船のGPSに釣り場の位置情報を表示させ

	<p>ていたが、本事故当時は失念していた。</p> <p>船長は、港口を通過するため左転する際、舵角を約7°とり、その後、舵を中央付近に戻して舵輪から手を離し、船尾方を向いてGPSの操作を行っていた。</p> <p>船長及び釣り客6人は、全員救命胴衣を着用していた。</p> <p>本事故当時、本船の他に、付近を航行している船舶はいなかった。</p> <p>本事故後、消波ブロックには、本船の塗料が付着していた。</p>								
分析	<table border="1"> <tr> <td>乗組員等の関与</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>船体・機関等の関与</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>気象・海象の関与</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>判明した事項の解析</td> <td> <p>本船は、留萌港において出航中、船長が、本件防波堤付近で左転後、舵を中央に戻したと思い込んで、舵角を確認せず、船尾方を向いてGPSの操作を行い、本件防波堤先端付近に向けて左転していることに気付かず、本件防波堤先端付近に設置された消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p> </td> </tr> </table>	乗組員等の関与	あり	船体・機関等の関与	あり	気象・海象の関与	なし	判明した事項の解析	<p>本船は、留萌港において出航中、船長が、本件防波堤付近で左転後、舵を中央に戻したと思い込んで、舵角を確認せず、船尾方を向いてGPSの操作を行い、本件防波堤先端付近に向けて左転していることに気付かず、本件防波堤先端付近に設置された消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>
乗組員等の関与	あり								
船体・機関等の関与	あり								
気象・海象の関与	なし								
判明した事項の解析	<p>本船は、留萌港において出航中、船長が、本件防波堤付近で左転後、舵を中央に戻したと思い込んで、舵角を確認せず、船尾方を向いてGPSの操作を行い、本件防波堤先端付近に向けて左転していることに気付かず、本件防波堤先端付近に設置された消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>								
原因	<p>本事故は、夜間、本船が留萌港において出航中、船長が、本件防波堤付近で左転後、舵を中央に戻したと思い込んで舵角を確認しなかったため、船尾方を向いてGPSの操作を行い、本件防波堤先端付近に向けて左転していることに気付かず、本件防波堤先端付近に設置された消波ブロックに衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>								